



ウルメイワシ (対馬暖流系群) ①

ウルメイワシは日本周辺に広く生息しており、本系群はこのうち東シナ海から日本海側に分布する。

図1 分布図



日本の沿岸域を中心に分布し、特に本州中部以南に多い。本種の漁場は、主に九州西方から山陰の沿岸に沿って帯状に形成される。

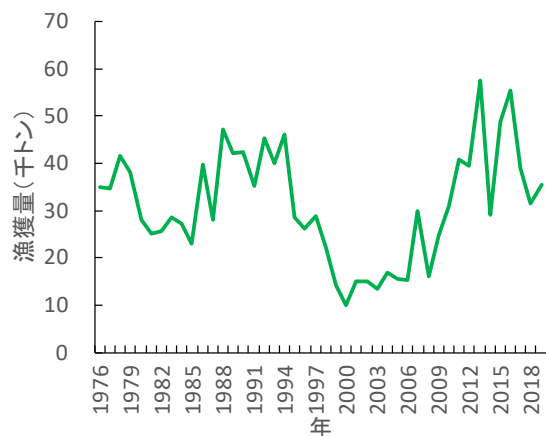


図2 漁獲量の推移

1976年から1998年まで毎年20千トンを越えた。1990年代後半から2000年にかけて10千トンまで減少した。2001年以降は増加傾向にあり、2019年は35千トンとなった。

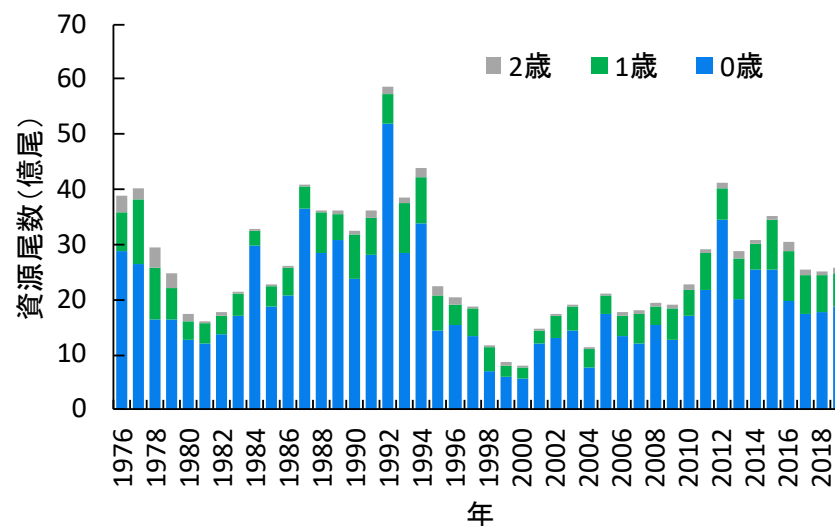


図3 年齢別資源尾数

資源の年齢組成を尾数で見ると、0歳（青）、1歳（緑）を中心に構成されている。

ウルメイワシ（対馬暖流系群）

②

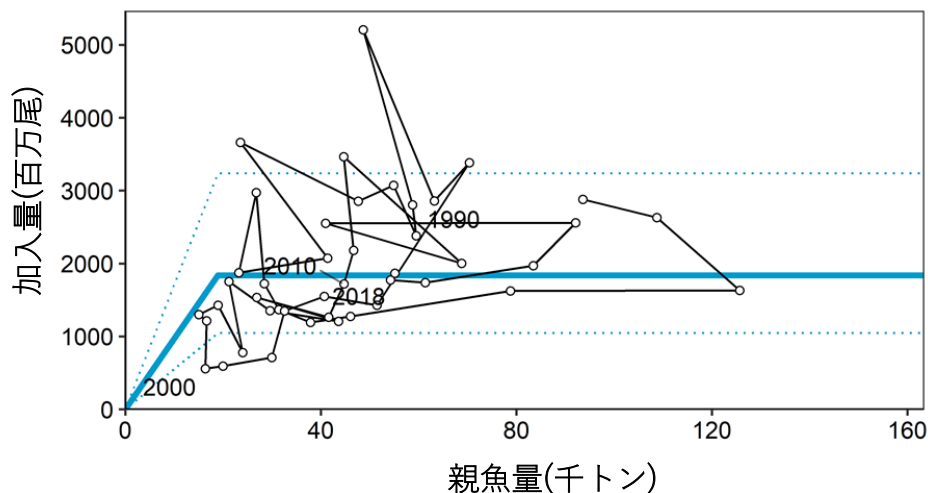


図4 再生産関係

ホッカー・スティック型の再生産関係を適用する。
 図中の点線は、再生産関係の下で、実際の親魚量と加入量の90%が含まれると推定される範囲である。

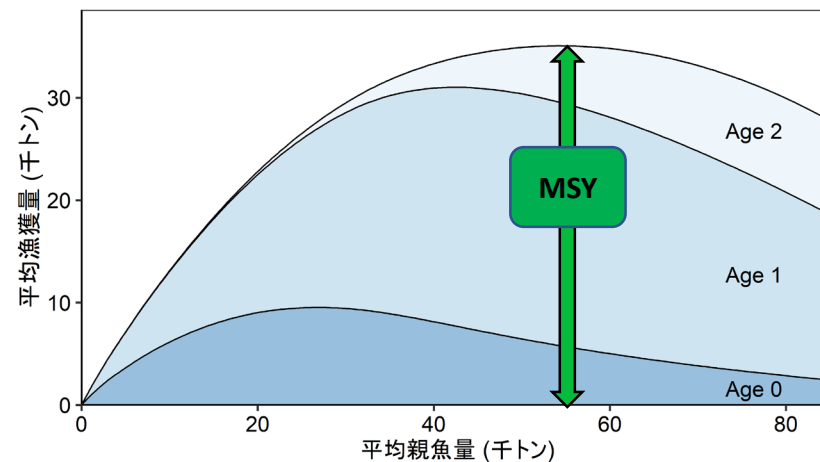


図5 管理基準値と禁漁水準

最大持続生産量（MSY）を実現する親魚量（SBmsy）は、ホッカー・スティック型の再生産関係に基づいて算定した。

MSYを実現する親魚量	2019年の親魚量	MSY
54.3千トン	55.1千トン	35.1千トン

ウルメイワシ（対馬暖流系群）

③

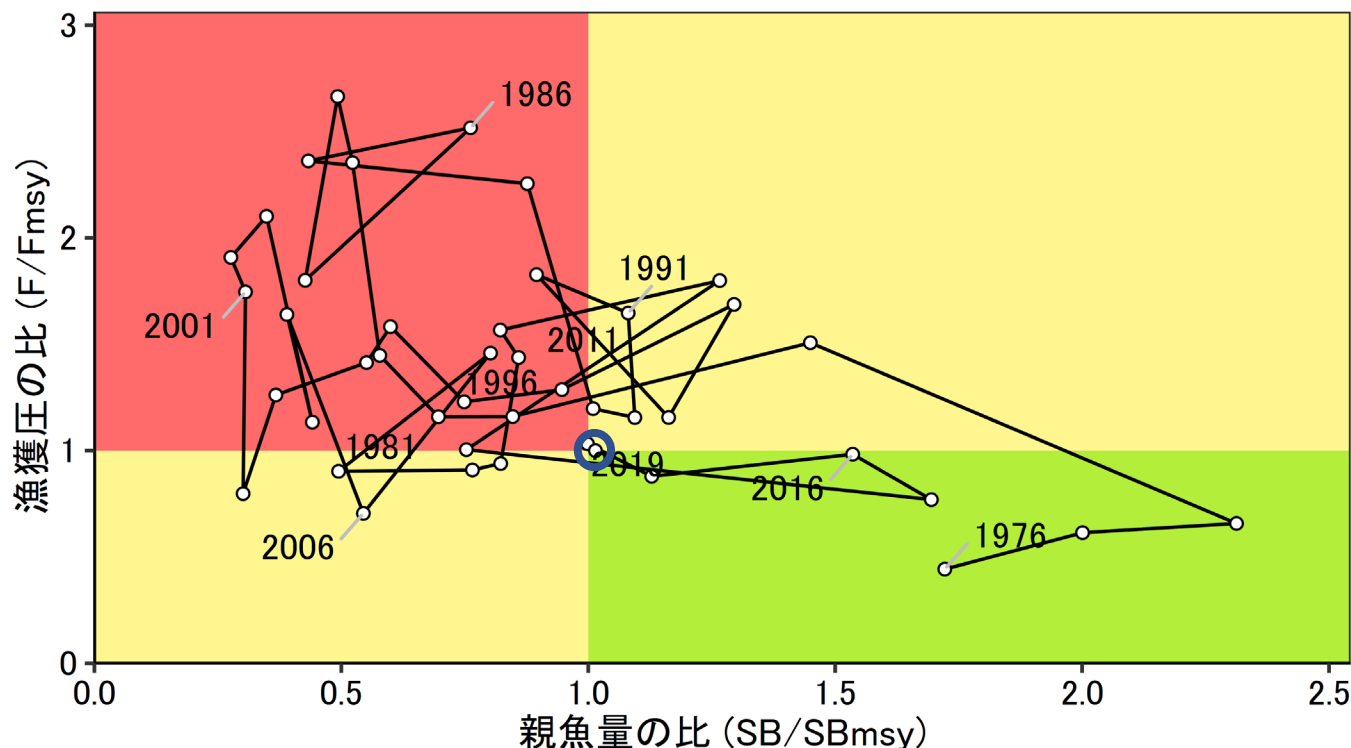


図6 神戸プロット (神戸チャート)

漁獲係数 (F) は、1976～1978年は、MSYを与える水準を下回っていたが、1979年以降は増加し、ほとんどの年でMSYを与える水準を上回った。直近年は F_{msy} と同程度だったと判断される。現状の親魚量 (2019年の親魚量：55.1千トン) は SB_{msy} をわずかに上回っている。